

100學年度

日本文化史研究(担当:太田登)

第一学期

日本の文化の基層を形成している系脈について、風雅論ひいては芸術論の視点から考察する。

1: 授業の目的・内容・方法・評価などについて説明する。

2: 芭蕉の「笈の小文」論

3～17

西行と「古今和歌集」

宗祇と古今伝授

雪舟

利休

芭蕉

世阿弥と「風姿花伝」

宣長と「もののあはれ」

18: 期末レポート

【評価方法】 期末レポート50%、発表成績30%、出席20%

第二学期

近代日本思想史の水脈について、知識人像のありようをナショナリズムとインターナショナリズムとの相関という視点から考察する。

1: 授業の目的・内容・方法・評価などについて説明する。

2: 吉田松陰

3～17

福沢諭吉、中江兆民、徳富蘇峰、内村鑑三、新渡戸稲造、高山樗牛、岡倉天心、内藤湖南、柳田国男、森鷗外、夏目漱石、西田幾多郎、吉野作造、石橋湛山

18: 期末レポート

【評価方法】 期末レポート50%、発表成績30%、出席20%